

区政Now！（令和2年10月号）

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

発行：荒川区

区政今



9月21日は敬老の日でした。長年にわたりご家族や地域を支え、社会に貢献してこられた高齢者の皆さまに敬意と感謝を申し上げるとともに、ご長寿を心よりお祝い申し上げます。本来であれば、「長寿慶祝の会」を開催しお祝いすべきところでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年は中止とさせて頂きました。何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

区民の皆さま、特に重症化するリスクが高いと言われる高齢者の皆さまにおかれましては、今後も手洗い・咳エチケット・3密を避ける等の感染予防対策を守るとともに日々の健康管理に十分ご留意ください。

高齢者の方々が健康的で自分らしい生活を送るための取組みを行っています。

健康づくりとしては、「お口と食事の元気塾」を区内各地域で開催しています。加齢に伴って筋力や心身の活力が低下した状態を指す「フレイル」を防ぐため、口腔ケアの方法や、むせずに安全に食事をとるための工夫や姿勢、動ける身体を維持するための食生活について学ぶことができます。

日常生活の支援としては、ひとり暮らしの高齢者等に栄養バランスのとれた昼食の宅配と安否の確認を行う「配食見守りサービス」を行っています。また、ご自宅に取り付けた機器の通報ボタンを押すと、区が委託している事業者の受信センターに通報され、警備員が駆けつけて119番通報する「緊急通報システム」のサービスもを行っています。

生きがいづくりとしては、60歳以上の方ならどなたでも参加できる「荒川シルバー大学」で書道や絵手紙等の文化教養講座を実施しています。また、「高齢者クラブ」では約5,900人の会員が地域交流活動、社会奉仕活動等を行っています。

今後とも、高齢者の方々が地域で安心して暮らして頂けるよう、様々な取組を進めてまいります。

新潟県村上市と「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。

9月1日、新潟県村上市と「災害時における相互応援に関する協定書」を締結しました。

首都直下型地震や大規模水害が発生した場合、区では甚大な被害が発生することが予想されています。円滑に復旧を進めるためには、区だけの力では不十分であり、国や都、他自治体からの支援が必要不可欠です。

今回の協定では、食糧・飲料水・生活必需品・資機材の提供と運搬、車両の提供、救助及び復旧に必要な職員の派遣、被災者の一時収容のための施設の提供及び被災者の受け入れ等について協力していくことを決めました。

今後、どちらかの自治体で大規模な災害が発生した場合は、相互に連携を図りながら、円滑な復旧活動を行ってまいります。



村上市長との記念写真

主な事業

新型コロナウイルス感染症の関連情報をお知らせします。

現在の新型コロナウイルス感染症の区内発生状況の傾向は、20代、30代が最も多く、主な感染経路は、家族関連が多くなっております。家庭内で発生させないために、外出した際には、手洗いや3密回避等の徹底が大切です。

区では、PCR検査体制の強化や衛生資材の提供などの医療体制の強化をはじめ、介護・障害者福祉施設への応援給付金の支給、子育て世帯への臨時応援給付事業、中小企業者等を支援する特別融資など、新型コロナウイルス感染症に対する様々な取り組みを行っています。

また、現在、未知のウイルスに対する不安などから、感染者や様々な分野で私たちの健康と生活を守り、支えている方々等への差別や、SNS等での心ない書き込みが社会問題となっています。インターネット等に掲載されている情報の中には不確かなものや事実と異なるものもあります。むやみに信用することなく、区をはじめ、国や関係機関からの情報に基づき、冷静な行動をお願いいたします。

フードシェアリング事業者との連携により、更に食品ロス削減の取組みを推進しています。

区は、8月28日に、ICT(情報通信技術)を活用したフードシェアリングサービス「TABETE」を展開する株式会社コークッキングと食品ロス削減の普及啓発を目的とした、連携協定を締結しました。



荒川区とTABETEの連携

フードシェアリングとは、食品が余ってしまった飲食店と、それを割安な価格で購入したい消費者をマッチングするサービスです。「TABETE」はスマートフォンのアプリで出品・購入ができるサービスを展開しています。この仕組みと区の食品ロスを削減する「もったいない大作戦」の取組の一つである、あら！もったいない協力店に「TABETE」を活用いただくなど、相互連携することで、更なる食品ロス削減が進められると考えております。

荒川区の1人1日あたりの食品ロス発生量は48グラムと、国の全国推定値である132グラムより少ない状況ではありますが、今後とも循環型社会の実現に向けて、施策を推進してまいります。

子どもたちが寄席文字の技・魅力を体験しました。

8月30日、荒川ふるさと文化館にて、夏休み子ども博物館「あらかわ職人教室『寄席文字をかこう』」のイベントを開催しました。新型コロナウイルス感染症感染防止のため、間隔を空けた座席配置や、アクリル板設置等の対策をとって行いました。



寄席文字体験の様子

寄席文字とは、寄席の看板や高座のめくりに使われる文字です。講師の銘苅先生は、事前に書きたい文字を考えてきた子どもに対して、一人一人お手本を書いて見せていました。子どもたちは、普段学校で習う習字の書き方との違いに戸惑いながらも、先生の技をしっかりと学び、集中力を切らさず、練習していました。

「夏休み子ども博物館」は、子どもたちに伝統工芸技術などをはじめとする様々な体験をとおして、区の歴史・文化について関心を深めてもらおうと、毎年開催しています。区では、今後とも子どもたちが、郷土の歴史・文化を楽しみながら学べる場の創出に取り組んでまいります。